

科目名	先端医療施設臨床実習				分野・必選別・単位数	専門実習科目	自由	8単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 教授 大谷浩樹 教授 古徳純一 准教授 菱木 清					授業方法	実験・実習	
課程	博士後期	配当年次	1～3年	配当学期	通年	配当コース	診療放射線コース 医学物理士コース	
授業の概要	放射線科領域の各分野で近年、開発、改良された最先端医療機器の実習、研究が博士前期課程で実施されたが、更なる研究の継続、進展を望む学生が先端医療をより深く修学するために、これらの施設での実習を実施する。							
授業の到達目標	臨床実習により経験した、それぞれの先端的な放射線技術に関して医療的な側面および学問的な側面より概説できる。							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	【行動目標】 本学医学部附属病院で実施できる先端医療臨床実習として、診療画像検査の領域では医療画像処理としての放射線画像に各種画像処理を加えて、診断を容易にする技術、例えば、形態学、病態学、画像工学、情報工学(PACSも含む)、信号処理に基づいた画像処理技術の実習などが上げられる。 また核医学検査の領域では陽電子放射CT(PET)に関する実習などが上げられる。更には放射線治療の領域では定位照射法、強度変調放射線療法などの実習が上げられる。 これら先端医療機器を備えた施設においての実習を経験し、更なる研究の継続、進展を目指し、その内容を説明できる。							
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	今回の実習内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。						
	【事後学修】	実習中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	該当期間に120時間以上の予復習が必要。						
教科書	特に指定しない。							
参考書	特に指定しない。							
評価方法	臨床実習への取り組み80%、レポート20%							
その他履修上の注意事項	実習場所:帝京大学医学部附属病院、最先端医療機器を所有する医療施設 試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。							